

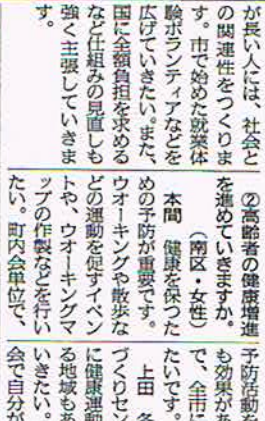
# 札幌市長選 市民が問う

## あす告示 立候補予定者に聞く

27日に告示を迎える札幌市長選(4月10日投開票)で、北海道新聞は「市民が問う」と題して、さまざまな市民の声を伝えるとともに「立候補予定者に聞きたいこと」を募集しました。その質問を基に、立候補を表明している新人の本間奈々氏(41)「民主・社民、国民新、市民ネット推薦」(立候補表明順)にそれぞれインタビューしました。



上田 文雄氏 (62)



本間 奈々氏 (41)

### 高齢者の生きがい作る

①生活保護費の急増にどう対応しますか。  
(中央区・男性)  
本間 必要な生活保護費は確保しなければなりません。一方で働きたくても就労先がないために生活保護を受けている人を減らす必要があります。経済活性化や景気対策のため、公共投資を増やし介護、医療分野など新しい産業を創出します。  
上田 仕事を増やし、就労を支援していくことが第一。そのための仕事をしない期間

が長い人は、社会との関連性をつくり出す。市で始めた就業体験プログラムなどを広げていきたい。また、田舎を希望する求職者も、なな組の目置しも強く主張していきたい。  
②高齢者の健康増進を進めていきますか。  
(南区・女性)  
本間 健康を保つための予防が重要です。ウォーキングや散歩などの運動を促すイベントや、ウォーキングマップの作成などを行い、町内会単位で、

③市議の報酬、定数はどうすべきですか。  
(豊平区・男性)  
本間 公約に掲げた人件費10%削減の中で、議員報酬の10%カットもお願いしています。自ら腕を垂れるため、市長給料は20%引き下げます。定数は市長側からではなく、議員の中で考えてほしいと思います。  
上田 市議報酬はお手盛りではなく、第三者機関の意見を尊重してほしい。選挙後に特別報酬等審議会を開いて議論してもらいたい。定数については、高齢者は「孫みたく」に思える。目を離れさせています。高齢者同士もサポートできる人を登録制にして一緒に買い物や散歩などをやる。まっくらセンターを中心とした、NPOなどをそういう企画をやりたい。

### 介護や医療の新産業を

④大型施設建設がしばらくありません。今後はどうしますか。  
(北区・男性)  
本間 上田市政の8年間、10年、20年後の札幌のビジョンが検討されてこなかった。地下鉄の清田方面への延伸や区役所の建て替え、コミュニケーションを取って、人手で足りない部分を補う必要があります。  
上田 本言に悩ま深い。地域医療を支える拠点でもあるし、防災面からも、中心部に直接アクセスできる重要を確保しなければなりません。



「おこわり」ってWhichきつぽろ「すたみなことば」は休みました。

⑤議員の不祥事が多い。防止策は。  
(中央区・男性)  
本間 人事を含めていろいろ問題があると思います。特に技術系の人たちとのコミュニケーションがしっかり取れていない。技術職の処遇は事務職と差があり、排除されている現状があります。それを理解した上司を確保することが求められているはず。正直な選挙をしたいと思います。  
上田 2期やってきたことを正しく評価してほしい。市民の希望があっても、リーダーがなくても、リーダーの活動についても90%が「評価する」とした。  
同会議共同代表で北大大学院の姉崎洋一教授は「子どもの権利条例などに対する市議候補の理解が広がっていること、表れと喜び。候補者の回答は、同会議のホームページhttp://www.ne.jp/asahi/sapporo/kodomo\_nokenriyousei/」近日中に掲載される。

子ども権利条例市議候補9割評価  
市民団体が質問状  
市民団体「札幌市子どもの権利条例市民会議」は25日、札幌市議選出馬予定者に子ども施策に関して行った公開質問状に対する回答を公表した。市が2009年度に施行した子どもの権利条例について、90%が「評価する」と回答した。  
調査は市議選出馬予定者77人に対し今月12日に送付。25日までに40人から回答を得た。調査では、子どもの権利侵害に対する救済機関「子どもアシストセンター」の活動についても90%が「評価する」とした。

現す文の記

